

平成29年

6月定例会
代表・一般質問通告書

代 表 質 問 順 序 表

日	質問順	氏 名 (質問時間)	頁
6/12 (月)	1	神 崎 功 (35分)	1
	2	野 口 吉 明 (36分)	2
	3	戸 島 義 子 (22分)	4
	4	鶴 崎 敏 康 (15分)	5
	5	関 根 信 明 (13分)	6

一 般 質 問 順 序 表

6/13 (火)	1	傳 田 ひ ろ み (20分)	7
	2	三 神 尊 志 (25分)	8
	3	久 保 美 樹 (18分)	9
	4	高 子 景 (5分)	10
	5	新 井 森 夫 (17分)	11
	6	斉 藤 健 一 (20分)	12
6/14 (水)	7	渋谷 佳 孝 (12分)	13
	8	川 村 準 (5分)	14
	9	玉 井 哲 夫 (17分)	15
	10	神 坂 達 成 (20分)	16
	11	谷 中 信 人 (15分)	17
	12	吉 田 一 郎 (5分)	18

1 番 神 崎 功 (3 5 分)

1 選挙戦を振り返って

- (1) 総括的な感想・評価について
- (2) 結果を受けて3期目を担う決意について

2 マニフェストについて

- (1) 2期8年の実績について
- (2) 東日本の中枢都市の形成の具体的政策について
- (3) 教育・子育て支援の具体的政策について
- (4) 健幸長寿社会に向けた対策の具体的政策について
- (5) 都市の強靱化について
- (6) スポーツコミッションの法人化について

3 日本一の教育都市について

- (1) これまでの成果と目指すべき方向について

4 当面の課題について

- (1) 順天堂大学附属病院整備の現状と今後について
- (2) 市民会館うらわの整備について
- (3) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会における本市の費用負担とレガシーについて

5 3期目に向き合うべき課題について

- (1) 本庁舎の位置の問題について
- (2) 3期12年・多選自粛について

2 番 野 口 吉 明 (3 6 分)

- 1 市長の政治姿勢について
 - (1) 2期8年の自己評価と自己採点
 - (2) 2期8年の中での変節
 - ① 選挙後の登庁
 - ② 外部団体の役員就任
 - ③ 公用車
- 2 さいたま市長選挙の結果について
 - (1) 投票率の下がった要因について
 - (2) 区ごとの投票率について
 - (3) 18才、19才の投票率について
- 3 選挙での争点について
 - (1) ビッグイベントについて
- 4 「運命の10年」への課題
 - (1) 人口減少時代への備えについて
 - (2) 地下鉄7号線の延伸について
 - (3) 本庁舎について
 - (4) 大宮駅周辺整備について
 - (5) 順天堂大学病院整備について
- 5 改正生産緑地法への本市の対応について

6 オリンピック・パラリンピックの費用負担について

3 番 戸 島 義 子 (2 2 分)

- 1 市長の政治姿勢について
 - (1) 「共謀罪」法案について
 - (2) 憲法改正問題について
 - (3) 核兵器禁止条約について
 - (4) 大宮駅周辺など都心の大規模開発について
- 2 国保の県単一化問題について
 - (1) 県単一化にむけた県・他市町村との協議と到達点について
 - (2) 単一化による課題について
- 3 学童保育行政について
 - (1) 公立学童保育の待機児童対策について
 - (2) 民間学童保育への支援の拡充について
- 4 過大規模校の解消について

4番 鶴崎 敏康 (15分)

1 市長の政治的スタンスについて

- (1) 今回の選挙での、市長の戦術について
- (2) この間（2期目まで）の国との関係、特に自・公政権との関係はどのようなものだったのか
- (3) 3期目が始まり、今後、市長は政権与党とどのような関係を構築しているのか

2 新庁舎問題について

- (1) 審議会の進捗状況について
- (2) 清水市長の、さいたま市長としての考えは
- (3) 今後の審議会の予定（行程表）について

5 番 関 根 信 明 (1 3 分)

1 市長の政治姿勢について

(1) 市長 3 期目の運営方針について

- ① 市長の運営方針の見直し、取り組み割合について
- ② 都市間連携、シティセールス、市長のトップセールスについて

(2) 職員の管理体制と職員のコンプライアンスについて

- ① 職員の管理体制の現状と今後の方針について
- ② 職員のモラル、コンプライアンスの再構築について

2 世界に誇る盆栽文化の振興について

(1) 第 8 回世界盆栽大会 in さいたまの成果と課題について

- ① 予想以上の各会場の入込数等同大会の評価、同大会を通じての課題について
- ② 2020 年東京オリパラ大会に生かされるものについて

(2) これからの盆栽文化振興策について

- ① 3 年に一度のさいたま大盆栽展の開催について
- ② 大宮盆栽美術館周辺整備について
- ③ 盆栽アカデミーの取組について

3 市立病院建設事業について

(1) 総合評価方式を採用した背景と同事業の落札までの経緯、疑問点について

1 番 傳 田 ひろみ (20分)

- 1 「我が事・丸ごと」の地域づくりについて
 - (1) 現状と今後の取り組みについて

- 2 ノーマライゼーションの推進について
 - (1) 「障害者差別解消法」施行を受け、この1年の市としての取り組みについて
 - ① 対応要領の作成について
 - ② 対応要領の職員への周知について
 - ③ 新人研修について
 - ④ 事業者に対する対応は
 - (2) 誰でも利用できるスポーツ施設の設置について

- 3 一般廃棄物処理基本計画「前期」を終えて
 - (1) 基本的方向の達成度は
 - ① 市民一人一日当たりの総排出量について
 - ② 施設整備計画について
 - ③ 最終処分計画について
 - ④ 市民意識調査の結果とその活用について
 - (2) 長期計画である「4ブロック3施設体制」の実現に向けて

- 4 バリアフリーを生かした「おもてなし」を
 - (1) 大宮駅・盆栽村・各種イベントに関して

2 番 三 神 尊 志 (2 5 分)

- 1 子育て支援について
 - (1) 幼稚園の補助
 - (2) 学童の場所確保

- 2 ホームレス支援について
 - (1) ホームレス自立支援計画の進捗
 - (2) 計画の今後
 - (3) 民間団体との連携

- 3 ICTの活用について
 - (1) さいたまシティスタット
 - (2) IoT (モノのインターネット)

- 4 今議会冒頭での「市長挨拶」について
 - (1) 「夢の力」について

3番 久保美樹 (18分)

- 1 犯罪被害者支援について
 - (1) 犯罪被害者支援条例の制定について
 - (2) 性暴力犯罪被害者支援について
 - (3) 刑法の性犯罪規定の改正案について
- 2 いじめ対策について
 - (1) 重大事態について
 - ① 文部科学省のガイドラインについて
 - ② 調査について
 - ③ さいたま市いじめ防止対策推進条例及びさいたま市いじめ防止基本方針の見直しについて
- 3 ホームレスの支援について
- 4 震災時の火災防止感震ブレーカーの設置について

4 番 高 子 景 (5 分)

1 新都心・大宮間の一体性

- (1) 回遊性、動線に必要なものとは
- (2) 哲学なき、一貫性のないまちづくりについて

5 番 新 井 森 夫 (1 7 分)

- 1 未来に向けての財政の考え方について
 - (1) 「財政運営も厳しさを増すことが見込まれる」を念頭に置いた各事業への取り組みについて
 - (2) 今後の本市の戦略的な財源投資への考え方について
- 2 建設工事入札について
 - (1) 入札結果について
 - (2) 約款の履行について
- 3 消防団活躍推進室について
 - (1) 消防団への加入促進について
- 4 消防機関と医療機関の迅速な医療機関の選定と搬送の実現について
 - (1) 公的医療機関、私的医療機関の体制充実について
- 5 安全・安心で豊かな教育環境について
 - (1) 学校施設について

6 番 齊 藤 健 一 (20分)

- 1 障害者就業支援について
 - (1) 市内企業の法定雇用率達成に向けての支援について
 - (2) 共同受注窓口を活用した在宅就業支援について

- 2 発達障害者支援について
 - (1) 早期発見・早期療育に向けた乳幼児健診と就学時健診について
 - (2) 1歳半乳幼児健診へのM-CHAT導入について

- 3 放課後子どもの居場所づくりについて
 - (1) 「放課後子ども総合プラン」の活用について

7番 渋谷 佳孝 (12分)

- 1 大宮駅東口公共施設再編計画について
 - (1) 推進本部会議の検討状況について
 - (2) 現大宮区役所の跡地活用について
 - (3) 大宮小学校について
- 2 真の「東日本の玄関口」になるために
 - (1) 都市再生緊急整備地域の指定について
 - (2) 大宮駅北側の開発と駅周辺の再開発計画について
 - (3) 大宮駅南側のバスターミナル整備について
 - (4) 具体的なグランドデザインの構築にむけて

8 番 川 村 準 (5分)

- 1 「市役所が浦和にある限り大宮に未来なし」は本当か

9番 玉井 哲夫 (17分)

1 無電柱化の推進について

- (1) 市内における無電柱化の進捗状況と今後の取り組み方針について
- (2) 旧中山道（針ヶ谷地区）の事業化について

2 地域防災力の強化について

- (1) 自主防災組織について
 - ① 機能・役割、活性化について
 - ② 地区防災計画の作成及び運用について
 - ③ 防災倉庫のあり方について
- (2) 避難行動要支援者名簿について
- (3) 避難場所について
 - ① 指定避難所の役割及び防災機能向上のための取り組みについて
 - ② 公共施設の防災上の位置づけについて

3 与野駅東口駅前広場等整備について

- (1) 整備に向けた今後の取り組みについて

10番 神坂 達成 (20分)

- 1 福祉コンシェルジュ（福祉制度案内人）の創設について
 - (1) 増大し複雑化する福祉ニーズに対応するため、福祉コンシェルジュ制度を創設すべきではないか

- 2 就学援助制度における新入学用品費の前倒し支給と単価増額について
 - (1) 就学援助制度における新入学用品費の前倒し支給と単価の増額についてどのように考えているのか

- 3 こどものいのちを守る防災対策について
 - (1) 大規模災害の発災に備え、こどもの防災力向上のため、防災頭巾から防災ヘルメットに政策転換すべきではないか

- 4 自転車通学における許可条件について
 - (1) さいたま市は自他ともに認める自転車のまち。市として、事故遭遇率が最も高い中学・高等学校生へ、自転車通学時のヘルメット着用を義務付けるべきではないか。また、通学時に限定するのではなく、普段から、ヘルメットの着用を働きかけるべきではないか。

- 5 ブックシャワー（書籍消毒器）の設置について
 - (1) 全国の都市では、書籍消毒器を設置する動きが広まりつつあるが、市民ニーズに応じて、書籍消毒器を設置すべきではないか

1 1 番 谷 中 信 人 (1 5 分)

- 1 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会について
 - (1) おもてなしアクションプランについて
 - (2) 受動喫煙の防止について

- 2 日本一の防災都市の実現に向けて
 - (1) ボランティアネットワークの整備について
 - (2) ICTの活用について

- 3 歳入確保の取り組みについて
 - (1) 地方創生応援税制について
 - (2) グリーンボンドの創設について

1 2 番 吉 田 一 郎 (5 分)

1 土呂駅を「盆栽駅」に改称しようとする住民不在の策動について

(1) 市の見解

(2) 土呂駅東口を「盆栽口」に改称しようという策動について

2 『さいたま市史鉄道編』の記述に極めて多数の誤りがあることについて

(1) 以下のような誤った記述について

●コラム 川越電気鉄道

- ・ P 24 「時速 25～35km という、速い自転車並みの速度」→速い自転車の速度でもそんなに速くない。
- ・ P 24 「車両は東京市電から払い下げられたものを使用し、」→川越電気鉄道が開通した 1906 年 4 月において、東京市電（1911 年成立）や前身の東京鉄道（1906 年 9 月成立）はまだ存在していない。
- ・ P 24 「1904 年 12 月に川越町に電灯を供給した。埼玉県下で電灯がともったのは、これが最初であった。」と、「1904 年 4 月に大宮町でも電灯供給事業を開始した。」は矛盾。

●コラム 武州鉄道

- ・ P 70 「川口～岩槻間の敷設免許を受け、」→川口～春岡村宮ヶ谷塔間の敷設免許を受け、

●京浜東北線の大宮延伸

- ・ P 78 「日本で最初の高速電車は、1904（明治 37）年に飯田町～新宿間で運転を開始した甲武鉄道」→飯田町～中野間の誤り。

●コラム 駅弁

- ・ P 109 「駅弁の製造販売を手がけていた浜長・氷川屋と、雑貨を取り扱っていた門奈が合同して合資会社三立軒を設立し、」→門奈は雑貨屋とともに西洋料理屋を営み、駅弁も販売していた。
- ・ P 110 「名前を聞くだけでは、海のものとも山の物ともにわかに判断しがたいが、」→盆栽すしは「洋風ちらし弁当」である。
- ・ P 110 「ムサシ産業は相次いで撤退し、」→撤退した時点では、ムサシ食品。

●戦時下・占領下の鉄道

- ・ P 143 「川越電気鉄道路線図」→工場前、荒地、成田山前の各駅が抜

けており、P24の記述と矛盾。

- ・ P143 「川越鉄道以来」→川越電気鉄道以来
- ・ P144 「まず37年7月に大宮～川越間が開業し、40年7月に高麗川までの全線が開通した。」荒川橋梁が竣工したのは38年6月であり、40年7月に大宮～高麗川間が開通。

●高度経済成長から現代へ

- ・ P168 「「横須賀色」(青とクリームのツートンカラー)のスマートな車輻の登場に沿線住民は歓喜した。」→「横須賀線に使用している電車を使用すべきという意見も多いが、湘南型電車を使用する事とした」との資料あり。
- ・ P172 「中距離電車129本」→原典の『東鉄ニュース』では「旅客列車129本」。蒸気機関車や電気機関車が牽引する列車や気動車は電車ではないし、黒磯・水上以遠へ行く列車は中距離ではない。あえてわかり易く表現するなら「中・長距離旅客列車129本」もしくは「東北本線・高崎線の旅客列車129本」。
- ・ P.173 「赤羽鉄橋の新設」→「荒川橋梁(もしくは荒川鉄橋)の増設」。
- ・ P.173 「平面交差踏切の全面立体化」→与野駅南側の大原踏切は、大原陸橋(1978年竣工)が建設されるまで残った。赤羽駅北側にも同駅高架化(1998年)まで踏切が残存。

●コラム 大宮駅東西通路

- ・ P.201 「歩行者と自転車が無料で通行できるようになった」→歩行者のみ。

●コラム 新幹線リレー号

- ・ P.222 「国鉄は、大宮駅を発着駅とする東北・上越新幹線の開業を「大宮暫定開業」と呼んだ。」→「大宮暫定始発」。82年6月に東北新幹線が在来線特急の一部を残したまま、上越新幹線に先駆けて運行を開始したのが「暫定開業」もしくは「先行開業」。
- ・ P.222 「東北・上越新幹線の乗客の東京～大宮間の輸送を在来線に任せるわけにはいかなかったのである。」→新幹線リレー号が走ったのは在来線。
- ・ P.222 「京浜東北線に南浦和と十条で各駅停車の電車を追い抜く快速電車を」→十条ではなく東十条。
- ・ P.222 「上野駅では15番線、大宮駅では7番線と発着ホームが限定され」→上野発で15番線を使用したのは13本中8本、上野着では14本中6本に過ぎず、大宮発で7番線を使用したのは14本中2本(他は3・4番線)、大宮着では13本中5本(他は8・9番線)。
- ・ P.222 「もちろん、新幹線特急券を所持していない場合は乗車できず、」→乗車できた。

●コラム 川越線の電化

・ P. 223 「川越～高麗川間は3両編成で川越において池袋方面の列車と接続した。」→電化時は日中の川越～高麗川間の約半数の列車が大宮まで直通し、川越での接続も特に考慮されていなかった。

・ P. 223 「1980年初頭までの川越線は、沿線開発の遅れと利用者の伸び悩みに直面していた。」→指扇駅を中心に利用者は増加していた。

「1982年の朝の上りラッシュにおける平均乗車率は243%にもなった。」の記述と矛盾。

・ P. 223 「沿線地域が、河川によって分断され独自の発展過程をたどってきた地理的・歴史的な背景と、」と「とはいえ、日進～川越間は大宮との結びつきが強く、」は矛盾。

・ P. 223 「バスで大宮か川越に出て東京都心方面へ向かう人々が少なくなかったのである。」→大宮駅～日進のバス本数は、73年94本→75年34本→79年16本→80年廃止。

(2) 一次資料を確認せず、wikipediaを写したような記述について

(3) 原稿の検証・校閲体制について

(4) 『さいたま市史鉄道編』の回収を含む対応について